

て報告しておきたい。

いまのところイヌイトモの産地は道東に限られるが、他の地方には分布しないのか、それとも気付かれていないだけなのかが気になる。北海道は広大で、まだまだ調査が行き届いていない地域が多い。資料がさらに集積されてゆけば、興味深い植物地理学上の問題が浮かび上がってくるのではないかと予想している。

再び水草の標本について

角野 康郎

この会報の第2号(1980)で、水草に関しては標本の蓄積がまだまだ不十分であることを述べた。標本の不足が日本の水生フローラの再検討や水草の植物地理学的研究を進める上で、ひとつのネックになっている実情を訴えたかったわけである。今、いくつかの県で植物誌の完成を目指して標本の収集が精力的に進められていることは確かだが、全国的に見れば、先に述べた実情に変わりはない。今回は、オオカナダモとコカナダモに関する資料でその一端にふれたいと思う。

次の表には5ヶ所の標本庫に所蔵されているオオカナダモ、コカナダモの標本点数を示してある(1986年2月現在; 同一標本庫における重複標本は全て1点と数えたが、交換により他の標本庫にも送られている場合は別個に1点と数えてある)。

	オオカナダモ	コカナダモ
東大資料館	4	4
国立科博	6	4
牧野標本館	3	0
京大・植物	15	26
神戸大・教養	56	87
計	84	121

オオカナダモ、コカナダモの異常繁茂、分布の拡大があれほど騒がれながら、残されている標本の記録は実に少ないのである。両種の異常繁茂が琵琶湖から始まったことを考えれば、東京の標本庫に少なく、関西の大学に多いことは納得がゆく。しかし、京大、神戸大ともに採集者はごく限られた人たちである。そのことがもたらす問題は、図1を見ていただければ明らかであろう。

図1は、コカナダモの分布図を先の表にあげた標本庫で確認できた標本のみにもとづいて作成したものである

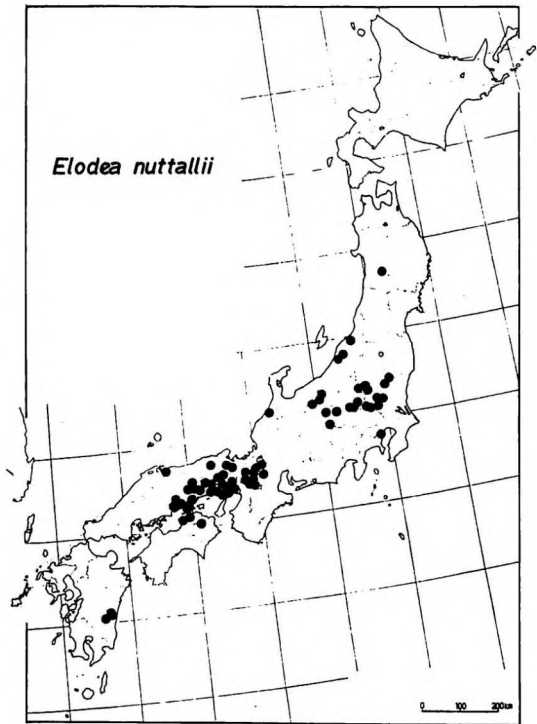


図1. 標本にもとづくコカナダモの分布図
(角野、未発表)

(コカナダモの分布についてはいくつかの報告があり、その資料を採用すれば分布地点の数はふえる。しかしここでは「再検討の可能な標本に基づいて分布図を作成する」という原則に従う。文献の記録の有用性を否定するものではないが、一方で、かなりよく名の知られた分類学者の同定においてさえ、今なおコカナダモとクロモの混同がみられるという現実を心にためておく必要があろう)。

さて、この図がコカナダモの正しい分布を示しているかと問われると、答は否である。コカナダモの分布拡大が報告されている東海地方や愛媛県の点はひとつもないのである。この図は、コカナダモの実際の分布よりも、採集者の調査地の分布を示しているのかもしれない。例えば、兵庫県の南部に点が密集するのは、私個人の日常の調査地域であるという事実によるものであって、この地域が全国有数のコカナダモ繁茂地であることを示すものではなからう。逆に、点の打たれていない地域にコカナダモが産しないということも言えない。山口県から九州にかけて分布地点が少ないというのはどうも事実らし

いが(オオカナダモの産地は極めて多い)、他の地域は、単に調査(採集)の空白地帯なのである。このような状況であるから、例えばコカナダモがいつごろからどの地域に侵入を開始したのかを標本でたどろうとしても、今ではほとんど不可能になっている。

ここであげたコカナダモの事例は、標本の資料的利用としてはむしろ副次的なものかもしれない。むしろ、日本に自生する水草の自然史を正しく理解するためにこそ、標本の十分な蓄積が必要なのである。どの地方にどのくらい自生していたのかさえも明らかにされぬまま、今、日本から姿を消そうとしている水草もあるのである。

○文献リスト <1985-(3)>

- 薄葉 満. 福島県の興味ある水生植物Ⅱ. フロラ福島 No4:27-32.
- 時田房恵. ムラサキコウキクサとコウキクサ. 福岡の植物 No11:113-114.
- 別府敏夫・柳瀬大輔・野淵 正・村田 源. 日本産アオウキクサ類の再検討. 植物分類地理 36:45-58.
- 三橋春雄. 水辺とのふれあいをめざして—ホテイアオイ等を使った溜池の浄化について—ホテイアオイ研Newsletter No6:3-6.
- 宮崎 昭. ホテイアオイの飼料的利用に関する文献抄録. 同上 No6:7-8.
- . 飼料資源の開発に関する最近の研究. 同上 No7:7-10.
- 矢島久美子・田中昭雄・原 善彦・氏家淳雄. コカナダモの生育条件に関する研究 第1報 水温および栄養条件. 群馬県衛生公害研年報 No17:158-164.
- 保田茂次郎. ホテイアオイの生理活性物質. ホテイアオイ研 Newsletter No6:1-2.
- Fujioka, S., I. Yamaguchi, N. Murofushi, N. Takahashi, S. Kaihara, A. Takimoto & C.F. Cleland. The role of Benzoic acid and plant hormones in flowering of *Lemna gibba* G3. Plant Cell Physiol. 26:655-660.
- Ikushima, I. & J. G. Gentil. Macrophyte and its environment in four lakes in Rio Doce Valley. "Limnological Studies in Central Brazil Rio Doce Valley Lakes and Pantanal Wetland (1st Report)" ed by Y. Saijo & J. G. Tundisi pp.113-125.
- Kaihara, S. & A. Takimoto. Induction of flowering in *Lemna paucicostata* by Dicoumarol and 4-Hydroxycoumarin. Plant Cell Physiol. 26:1465-1472.
- Kato, M. & K. Iwatsuki. An unusual submerged aquatic ecotype of *Asplenium unilaterale*. Amer. Fern Jour. 75(3):73-76.
- Kato, R. & T. Fujii. Some characteristics of membrane-associated protein Kinase in *Lemna paucicostata*. Plant Cell Physiol. 26:1379-1386.
- Kunii, H., T. Tsuchiya, K. Matsui & I. Ikusima. Present state of aquatic plants in Lake Biwa and its surrounding water bodies. Jpn. J. Limnol. 46:215-218.
- Oki, Y., K. Nakagawa & K.R. Reddy. Uptake and translocation of ¹⁵N in water hyacinth. Proc. Tenth Asian-Pacific Weed Sci. Soc. Conf. 1985:317-324.
- Oota, Y. Measurement of the critical nyctoperiod by *Lemna paucicostata* 6746 grown in continuous light. Plant Cell Physiol. 26:922-930.
- Sasago, A. & T. Sibaoka. Water extrusion in the trap bladders of *Utricularia vulgaris*. II. A possible mechanism of water outflow. Bot. Mag. Tokyo 98:113-124.
- Takagi, S. & R. Nagai. Light-controlled cytoplasmic streaming in *Vallisneria* mesophyll cells. Plant Cell Physiol. 26:941-952.

補遺 <1976-1984>

- 長田正夫・船越真樹. 1984. 諏訪湖におけるエビモ (*Potamogeton crispus* L.) 個体群の分